

●夏原グラントの来所に合わせて取り組み進む

現地視察が7月8日に行われます。夏原基金の交付金20万円が決定されて、巨木がナラ枯れによって枯れ、里山農園の1号地2号地での農作業が危険度を増したので、伐採作業を行うことになりました。4月の初めに宇治田原町奥山田の皆さんにお世話になって、約20本近くを切り倒していただきました。直径60cmもあって我々ではとても手の出せない代物でした。夏原助成金は申請金額よりも半額以下に削減されましたので、切り倒し作業のみをお願いになりました。玉切りや運び出し費用まではとても見られず、まして寸胴切りの経費はとても無理で、残りの寸切り作業は里山の会で行わなくてはならなくなりました。4月には予定地の草刈りはすべて行っておきましたが、6月に入りますと雑草の生育が早くて、見ている間に切り倒したものを覆い隠してしまいます。玉切りを行うためには覆い茂った雑草を取り除く草刈り作業が新たに加わり能率が上がりません。小枝が邪魔をして幹付近には、なかなかたどり着くのが困難になります。ものごとは、その時その場で処理をしておけばいいのですが、伐採を行った年度初めのころは「会誌42号発行」や「年度総会の役員体制の整理や会計監査準備」、に加えて「地域力再生プロジェクト事業の報告」、引き続き「次年度の申請準備」など優先事項が重なって、時期を逃してはいけないと気になっていても玉切りの時間が取れず、後追いになりました。それでも7月8日の現地視察には、里山農園での説明資料の作成に加えて同時並行で現地最小限の整理整頓が必要です。

今回初めての交付金支給を受けられることになり、十分な準備をやりあげてお迎えしたいと思います。伐採が行われて安心安全度がアップしているので、山裾はもちろん畑の中の草刈りを行って手入れの行き届いた現地を見ていただきたいものです。過日の「蛍観察の夕べと里山音楽会」に合わせて草刈りを行ったので、残りは約半分程度の作業量となっています。それでも計算すると20時間を超える作業時間が必要です。これまでナラ枯れ木の伐採地の10号地も20号地の笹竹を切り取る作業は大変でした。しっかり対策を行って、さすが里山の会はと印象をもってお帰りいただきたいものです。会員各位の皆様のお手伝を頼みます。時間の許す範囲で里山農園を覗いていただき、気の付くところからお手伝いをお願いします。

●京の七夕への笹竹の提供を求められる

京都商工会議所より連絡あり、相見積もり書を提出の結果、6月27日(火)午前11時納品で淀本町商店街振興会へ笹60本の注文が届きました。以後6月30日に吉祥院商店街、7月28日には深草商店街振興組合、7月31日丹波橋繁栄会、8月3日が松原京極商店街振興組合、8月4日は京都三条会商店街振興組合、現在納品期日未定で新京極商店街振興組合と続くことになりました。納品当日の朝7時に集合して納品指定時間に間に合わせたいと思います。初日の27日は笹60本と竹4本の納入となっています。これを機会に新しい商店街との絆が始まります。期待をして取り組みたいと思います。

●天然遡上アユの観察とアユの住める川づくり検討会17日行われる

午前10時に南山城村の山並みホールに集合し、アユの生態が説明され、大河原駅前の潜没橋・恋路橋上からアユ観察が行われました。目が慣れるに従って水中をすばしっこく泳ぐアユの姿が目に入り始めました。当初はちらちらでしたが、徐々に群れで泳ぐ魚影になりました。そのうちに安心したか、ものすごい数のアユが泳ぎ回っているではありませんか。これだけの多数のアユのいることに大変驚きました。ここに生育し成長できる餌場が存在していることの証明であるとガイド役の説明がありました。そしてそのほとんどが海産アユであることが数年の調査活動の中で証明されているとの解説でした。その後関電の発電所の取水井堰の魚道を見学に移動となりました。ここでは恋路橋であれほどいたアユの姿はほとんど見られませんでした。原因は、アユが堰を乗り越えることが難しく、また採餌に適当な条件が整っておらず、生育には不向きであるのであろうと容易に想像がつかしました。解説者からは、関電による魚道の改良などが行われアユの遡上が可能になると、上流の豊かな採餌場が提供され、さらに大きく成長できることが保証されるのは確かで、大変残念との話でした。

午後は木津川市山城町のアスパiaに会場を移して検討会が始められました。河川レンジャーの谷口さんからアユの成長の経過、淀川河川事務所から淀川大堰魚道における天然アユ遡上数の経年観測結果からわかること、コンサルタント・ウエスコさんから相楽堰堤魚道周辺におけるアユの生息密度調査について、続いて相楽堰堤の魚道の改良方法について、各方面から発表が続きました。最後の京都大学の竹門康弘准教授から木津川における大聖牛の設置の意義や取り組みについて解説がありました。木津川漁協は毎年トン当たり 400 万円のアユ(一匹:5g)の放流が実施されていること、それが成長すると 70~80g になり 10 トン以上の総重量と計算できる。時価にすると 5000 万円の価値になるとの説明に納得しました。本日はアユに特化した検討会でした。魚道とアユに限らず多様な生き物、少なくとも多様な魚類が生き生きと生育する木津川にする取り組みが必要ではないかと気づかされた。

●25 日木津川での「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」実施

21 日の事務局会議が終わった午後 1 時、昨夜から降り出した雨の影響が気になり木津川の増水を点検に出かけました。水量は竹蛇籠が少し頭を出すという程度で安心しました。激流でなくても水の濁りは相当なもので、支川も本流の水もかなり濁っていて、魚とりには不向きです。当日まで中三日あるので、なんとか、きれいな澄んだ水に戻ってほしいものです。大雨でダムから放流されますと、きれいな水に戻るには 7 日間がかかっています。しかし次の雨天が 25 日(日)との天気予報でした。やはりこの時期・梅雨ですので、いいめぐりあわせを祈るばかりです。25 日は山城全域からの参加を受け付けます。申し込み不要で、先着順に受付組数 20 組までとしています。受付は 25 日木津川流域センターにご参集ください。雨天の場合は座学を予定しています。

●第 1 回オオムラサキ観察会は 7 月 1 日(土)

講師を元近畿大学教授の桜谷保之先生にお願いしています。ご参集ください。参加申し込みは不要。集合場所は 10 時に京田辺市水取・普賢寺小学校前、または里山農園としています。昨年までは 6 月に開催してきましたが、見つかりませんでしたので、この経験から 2 週間遅らせました。気候等条件によって飛翔を確認できるときもできないときもあります。粘り強く観察しますので、暑さ対策の帽子と十分な水をご用意ください。なお携帯イスや敷物があれば待ち時間が楽です。ご用意ください。多数のご参集をお待ちしています。なお次回は 7 月 8 日にも行います。そして 7 月 15 日には、お泊り観察会も計画しています。保護者同伴として 10 組限定で受け付けています。これも先着順です。